

たてはく



開館30周年記念・後期特別企画展

霊山立山 天空への祈り

—修験から民衆登拝、布橋灌頂会まで—

会期：9月18日(土)～11月7日(日)

本年11月1日、富山県[立山博物館]は開館30周年を迎えます。これを記念して「霊山立山」への祈りと信仰の宝を一堂に集め、その魅力と価値を紹介する特別企画展を開催します。

立山は、富士山、白山と並んで「日本三霊山」と称され、わが国を代表する霊山として知られています。大日岳および剣岳では平安時代制作とみられる密教法具の銅錫杖頭(いずれも国指定重要文化財)が発見されており、それらはわが国の霊山信仰の過程を解き明かすうえでの代表的な遺物となっています。

本企画展では、古代における山岳修行の痕跡、山麓周辺に残る立山ゆかりの神像・仏像や文物、さらには近世における禅定登拝と布橋灌頂会の盛行まで、重要文化財や近年新たに発見された資料を通して「霊山立山」に人びとが向けてきた祈りと信仰の軌跡をたどります。

今日まで伝わる宝の数々を通して、立山が文化的価値の高い霊山であることをきっと再発見できるでしょう。

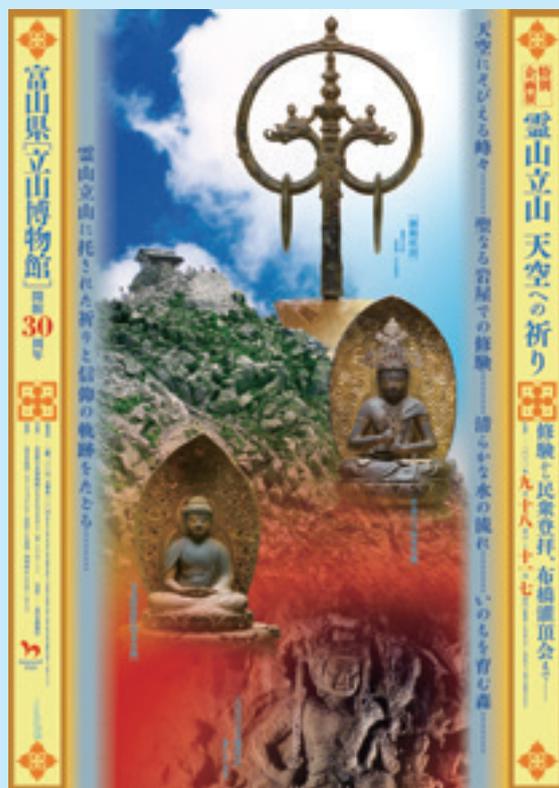
(高野靖彦)

展示構成

- I 修験者の祈り－山岳修行の痕跡－
- II 墮地獄救済の祈り－地獄谷と帝釈岳－
- III 立山の神仏への祈り－カミとホトケの姿－
- IV 近世立山信仰の祈り－禅定登拝と布橋灌頂会－

展示解説会

新型コロナウイルス感染拡大状況により、実施の可否を含め検討中です。決まり次第、当館HPでお知らせいたします。



会場 展示館1階 企画展示室

開館時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで)

観覧料 一般200円、大学生100円 ※高校生以下無料

会期中の休館日 月曜日(ただし9/20は開館)、
9月21日(火)、11月4日(木)
※9月17日(金)は臨時休館致します。

目次

開館30周年記念・後期特別企画展	
「霊山立山 天空への祈り —修験から民衆登拝、布橋灌頂会まで—」	1
開館30周年記念・前期特別企画展	
「立山信仰と山麓のくらし —国指定重要有形民俗文化財「立山信仰用具」の世界—」を終えて	2
開館30周年記念講演会 「地方再生と文化」開催延期のお知らせ	2
博物館実習を終えて	2
学芸課発 立博雑学	
第2回 立山曼荼羅に描かれていた「神農」	3
展示館2階の展示ケースをエアタイト化しました	3
秋の催し物案内	4
博学連携 今年も県内の小学校で出前講座を実施しました!	4
編集後記	4





開館30周年記念・前期特別企画展

立山信仰と山麓のくらし

—国指定重要有形民俗文化財「立山信仰用具」の世界— を終えて

「開館30周年記念」の特別企画展第一弾として、「立山信仰と山麓のくらし」と題し、当館の宝の一つで、国の重要有形民俗文化財に指定されている「立山信仰用具」を紹介しました。

本展示では、総数1,243点という資料群の中から、皆様にかかして「立山信仰用具」の魅力と価値をお伝えするかを念頭において、資料選定が一番難しいところでした。最終的に205点の「立山信仰用具」と参考資料1点（『立山手引草』、岩嶺寺延命院蔵）、未指定の民俗資料2点（版木）をあわせた208点が展示できました。特に、立山信仰の特徴的な資料である「立山曼荼羅」は、指定されている11点すべてを紹介することができ、少しでもその魅力がお伝えできたのではないかなと思っています。

〈民俗文化財〉は、地域に根ざした信仰や風習、芸能などとともに、その地域に暮らす人々の生活がうかがえる大系的な資料です。「立山信仰用具」もまた、立山山麓地域に根ざした〈立山信仰に関係する用具の集大成〉として、その価値が国に認められています。

「立山信仰用具」を見ていると、令和元年に寄贈して下さった、岩嶺寺旧宿坊家の延命院、多賀坊、中道坊と芦嶺寺旧宿坊家の善道坊、日光坊、宝泉坊の子孫の皆様をはじめ、これまでに貴重な資料を寄贈して下さった皆様に感謝してもしきれません。子孫により大切に守られてきた「立山信仰用具」には、「先祖の暮らしや立山の文化を後世に伝えてほしい」と寄贈して下さった皆様の「願い」と「想い」が込められています。立山博物館はこれからも、その「願い」と「想い」を心にしっかりと刻み、「立山信仰用具」を未来へとつないでいきたいと思っています。また、企画展準備中には今後の調査・研究の課題も発見しましたので、「立山信仰用具」の価値が一層高まるよう、頑張っていきます。

残念ながら、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、8月18日（水）より全館休館となり、最後まで開催できませんでした。それでも、7月17日（土）から8月17日（火）までの30日間開催できましたのは、多くの方々にご支援いただき、また感染症対策にご協力いただいた観覧者の皆様のおかげです。最後になりましたが、皆様に心より感謝申し上げます。（細木ひとみ）



「立山信仰と山麓のくらし」展示風景



ギャラリートークの様子

8月1日（日）には加藤基樹先生（文化庁・民俗文化財調査官）によるギャラリートークを開催しました。たくさんの皆様からお問い合わせをいただき、加藤先生には急遽14時から14時40分からの2回に分けてお話いただきました。



開館30周年記念講演会「地方再生と文化」開催延期のお知らせ

立山博物館顧問の青柳正規先生を講師にお迎えし、開館30周年記念講演会を開催する予定にしておりましたが、当面の間、開催を延期することにいたしました。当講演会は、開館30周年の節目となる行事であるとともに、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた地方活性化をテーマとしていることから、多くの皆さまから参加のお申込みがありました。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大に歯止めがかからず、県独自の警戒レベルが「ステージ3」になり、県営の文化施設・体育施設等が臨時休館することになりました。人流の増加や感染リスクの高まりを防ぐため、参加の申し込みをいただいた皆さまには誠に申し訳ありませんが、当面の間、開催を延期します。なお、あらためて開催可能となりましたら、当館ホームページ等でお知らせします。（岡田知己）

博物館実習を終えて

立山博物館では、学芸員資格の取得を目指す大学生のための博物館実習を実施しています。昨年度は実施しなかったため、2年ぶりの実習となりました。今年度は8月17日（火）から20日（金）と、24日（火）から27日（金）の計8日間、2名の県内出身大学生が参加しました。

今回は、8日間のうち4日間が在宅実習という異例の日程になったため、主に常設展示解説と企画展案のプレゼンに注力するカリキュラムになりました。例年より実資料に触れる機会は少なかったものの、その分、借用資料の燻蒸作業や資料撮影の見学など、珍しい業務に立ち会う機会も設けました。また、博物館の「舞台裏」について、実体験を交えながら、より理解を深めてもらえたのではないのでしょうか。学芸員という職業を垣間見ることで、地域社会との関わりや、スピーチや文章によって他者にものごとを伝えるための手法など、多くのことを能動的に学んでもらえた8日間でした。（坂口 舞）



資料クリーニング見学



常設展示解説





学芸課 発

立博雑学



学芸課によるリレー形式のコラムです。立山や立博についての蘊蓄や魅力を、雑学としてお伝えします。

第2回 立山曼荼羅に描かれていた「神農」

今年の春、恒例の立山曼荼羅特別公開展では2本の糸魚川ゆかりの立山曼荼羅を展示しました。そのうちの1本、金蔵院所蔵の立山曼荼羅を眺めていて、ある日他の曼荼羅にはいない不思議な人物が描かれているのに気が付きました。遠目に見ると仙人のようにも見えるのですが、よく見ると頭に小さな二つの角、首から肩にかけて葉っぱを纏って立っているようです(写真左)。この格好を見て「これは神農ではないか?」と思いました。でも、立山曼荼羅と神農がなかなか結び付かず、ちょっと謎めています。

神農は古代中国伝説上の皇帝で、山野で薬草を見つけるため、耜い鞭を持って草を打ち薬草を見つけたとか、毎日百種類の草を嘗めて何度も毒にあたりながらも薬草で蘇ったとも言われています。各地で「神農祭」や「神農講」といったイベントも行われ、今も製薬や売薬関係者、また香具師関係でも大切に祀られています。

そんな神農は一見立山信仰とは無関係に見えましたが、よく見るとちょうど神農が描かれている場所は材木坂の手前辺りです。立山の開山説話には、熊を追って立山に登る有頼少年が途中で倒れた時、口に入れた草を嘔むと元気が回復したという場所を「草生坂」とする話があります¹が、ちょうどその辺りのようです。

そうすると、どうやらこの立山曼荼羅の作者は草生坂の話から「草=立山の薬草」とイメージし、その象徴としてここに神農を描いたのではないかと考えてきました。

この曼荼羅に描かれた姿は違いますが、通常よく描かれる「神農」は口に草を噛んでいます(写真右)。

かつて廻壇配札では立山の薬草を用いた薬も持参して頒布したといえます²。「有頼が立山山中で草を口に含んで(その薬効で?)元気がなった」話は、立山とそこで産する薬草を結び付けて神農にあやかり、持参した薬に立山の霊験を付加する意図で組み込まれた話だったのかも知れません。確証はありませんが、この立山曼荼羅を使って絵解きをしていたのは、特に「立山の薬草で作った霊薬」を売りにしていた坊家だったのではないかと想像を膨らませてしまいました。立山信仰と富山売薬の関係では、例えば「先用後利」のシステムの起源は廻壇配札とする説があったり、富山の薬の代表格「反魂丹」の製法が立山権現に由来するとの由緒書があったりと、そのつながりの深さが語られます。

この立山曼荼羅に描かれた神農を見ていると、改めてそのつながりの深さが強く感じられました。(吉野俊哉)

1 廣瀬誠「立山開山の縁起と伝承」(高瀬重雄編著『山岳宗教史研究叢書10 白山・立山と北陸修験道』、名著出版、昭和52年所載)、佐伯幸長「立山をめぐる伝承説話」(前掲同書所載)など。

2 高田光三「芦峯寺のことなど」(越中郷土研究会編『越中郷土研究』第一巻第五号、昭和12年7月)7頁参照。昭和12年以前の聞き取りに依るとされる記述の中に、「(註一お札や経帷子の頒布を行ったことに続けて)立山の反魂丹とアイスを持って歩いて村人にわけてやった。反魂丹は草生坂(藤橋の奥)に生えてある薬草、松フジ、紅梅、シヨウヨウ、モツコ、朴木の皮でこしらへる。アイスはゴマをたいた灰と百草の灰を混ぜて作ったもので、色は黒く傷薬である。」という記述がある。ここでの生薬の同定や「反魂丹」の処方、配布の実態などには今後分析の余地があるが、立山信仰と薬草を結びつける傍証となる内容である。



(写真左) 神農と思しき人物(「立山曼荼羅金蔵院本」[金蔵院蔵]より部分)



(写真右) 草を噛む神農像(山月堂筆「神農像」[国立国会図書館デジタルコレクション]より部分転載)

展示館2階の展示ケースをエアタイト化しました

「エアタイト」とは、気密性があることを指します。今回の工事では、従来のケースの上から防湿シート、枯らし合板、文化財に有害な有機酸の放散を防ぐシートの順に張り、最後に、有機酸の放散を押さえた布クロスを張っています。新設したサッシの開口部はシリコンシールで目地止めし、ガラスの内側は低反射フィルム貼り、外側は低反射コーティングとなっています。照明は明るさと色温度が調整できるLEDにしました。これにより資料の見やすさが向上しました。また、銅錫杖頭のケースは有機酸除去と換気システムも備えます。

このように、今まで以上に、より適切な展示環境を維持できる国内有数の性能を持つケースに生まれ変わりました。今は同じ内容の展示ですが、今後展示の幅も広がられます。

(鈴木博喬)





秋の催し案内

イベントの詳細は
博物館まで
お問い合わせください!



◆立博ぶらり探訪

立山の歴史と文化について、立山博物館の施設を巡りながら学びます。

開催日：10月9日（土）
時 間：13：00～15：00
会 場：展示館（企画展）・教算坊・閻魔堂ほか
参加費：無料（雨天決行）
※定員15名、要事前申込。申込締切は9月29日（水）。
応募者多数の場合は抽選。詳細は当館HPをご覧ください。

◆もみじを愛でる会

教算坊において、紅葉を見ながら「立山曼荼羅」の絵解き解説を行います。

開催日：11月3日（水・祝）・7日（日）
時 間：各日 ①11：00～11：40
②14：00～14：40 の2回
会 場：教算坊
参加費：無料（申込不要）

令和3年度文化講演会

「立山修験」を考える

—立山修験の位置付けと今後の課題—

立山を霊場とし、山岳修行を行ってきた者たちの痕跡が現在も立山山中や山麓に遺っています。そこで、立山を修行場として諸国から集まった山伏たちの信仰や修行の痕跡を示す遺跡や遺構の調査成果を全国的な視点から位置づけ、「立山修験」の世界についてお話しいたします。

講師：山本義孝氏（日本宗教学会会員・日本山岳修験学会理事）
日時：令和3年10月16日（土）
14時～16時（開場13時30分）
場所：立山町元気交流ステーションみらいふ1階
（富山地方鉄道立山線「五百石」駅舎内）
定員：35名 ◎要事前申込。応募多数の場合は抽選。
締切：10月8日（金）必着
※詳細は当館HPをご覧ください。

博学 連携

今年も県内の小学校で 出前講座を実施しました!

新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年は小中学校の立山登山、遠足が軒並み中止となり、高校をのぞき出前講座はゼロに。それが今年度は5、6月だけで、小学校3校からお声がかかりました。前後左右に十分なソーシャルディスタンスをとっての実施でしたが、ずーっと後ろの子どもたちまで、目と心をつないで真剣に耳を傾けてくれました。遠足当日、今度は博物館で顔を合わせた子どもたち。中には「あ、あのときの先生だ〜」と声をかけてくれ、とても嬉しい瞬間でした。子どもたちは話聞いていた実物が目の前にあることに驚き、歓声を上げることもしばしば。子どもたちの食い入るようなまなざしに、私たちが驚かされました。（石崎康弘）



【おことわり】

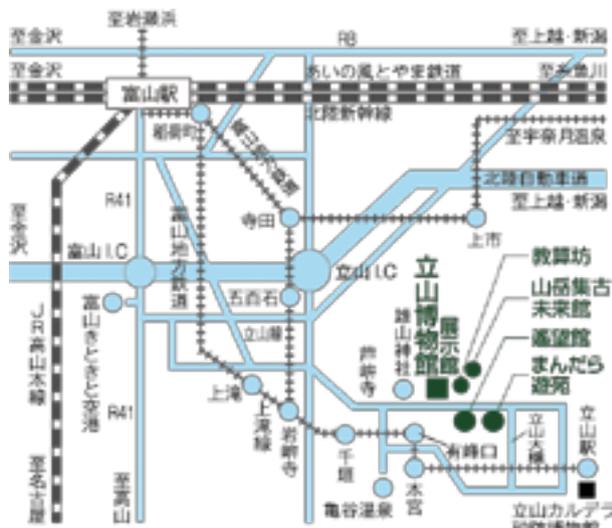
本号に掲載する各種行事は、新型コロナウイルス感染症対策やその他の事情により、内容変更や中止の可能性があります。その際は適宜当館HPにてご案内いたします。詳しくは当館までお問い合わせください。また、展示観覧やイベントで当館をご利用の際は、以下の項目についてご協力をお願いいたします。

- ・マスクの着用、手指の消毒、検温をしてください。
- ・受付や展示観覧中、他の方と一定の距離を空けてください。
- ・発熱・咳などの体調不良がある方はご利用をお控えください。

編集後記

予測できない情勢に翻弄され、たくさんの労力や思いがはかなくなり、鬱々とした空気が流れています。そんな中、将来に向かい、強い意志で多くを学びとろうとする博物館実習生の姿に励まされました。かつて自身が実習生であった頃に抱いていた希望を思い起こしながら、前向きに、日々できる限りのことをしていきたいと思えます。（坂口）

案内図



- 最寄り駅
富山地方鉄道立山線千垣駅
下車徒歩（約2km）
※日曜を除き町営バス運行
「雄神社前」下車すぐ
- 自家用車で
JR富山駅から 約45分
立山駅（千寿ヶ原）から 約15分
富山インターチェンジから 約35分
立山インターチェンジから 約30分

立山博物館のホームページはこちらから。



人間と自然のかかわり方を学ぶ

富山県[立山博物館]

〒930-1406 富山県中新川郡立山町芦峯寺93-1
TEL 076-481-1216 FAX 076-481-1144

<https://www.pref.toyama.jp/1739/miryokukankou/bunka/bunkazai/home/index.html>

FacebookとTwitterあります!

立山博物館

